

<平成 26 年度国際漁業学会シンポジウム>

## 途上国と水産資源管理

日時：平成 26 年 8 月 2 日（土）13:00～17:50

場所：東京大学大学院農学生命科学研究科フードサイエンス棟中島董一郎記念ホール

企画責任者：綿貫 尚彦（OAFIC）・八木 信行（東京大学）

13:00～13:10	開会の挨拶	多田 稔（国際漁業学会会長）
	趣旨説明	綿貫 尚彦
	<b>I. 我が国による水産資源管理の援助事例</b>	座長： 山下 東子
13:10～13:30	1. 東南アジア	渡邊 英直（水産庁）
13:30～13:50	2. 太平洋島嶼地域	越後 学（国際水産技術開発）
13:50～14:10	3. アフリカ	七尾 仁規（OAFIC）
14:10～14:35	Documentary on the co-management of artisanal fisheries in Senegal in 2012	
14:35～14:45	休憩	
	<b>II. 我が国の水産資源管理の途上国への応用</b>	座長： 大石 太郎
14:45～15:05	1. 日本型共同管理	鹿熊 信一郎（沖縄県）
15:05～15:25	2. 多栄養段階複合養殖	牧野 光琢（中央水研）
	<b>III. 途上国における水産資源管理のあり方の検討</b>	座長： 黒倉 壽
15:25～15:45	1. 研究者の視点	八木 信行（東京大学）
15:45～16:05	2. コンサルタントの視点	綿貫 尚彦（OAFIC）
16:05～16:25	3. 途上国の視点	Iqbal Djawad (Indonesia)
16:25～16:45	休憩	
	<b>IV. 総合討論</b>	座長： 八木 信行
16:45～17:45	総合討論	渡邊英直、栗栖昌紀（JICA）、牧野光琢 鹿熊信一郎、藤本麻里子（京都大学）
17:45～17:50	閉会の挨拶	黒倉 壽（国際漁業学会副会長）

### 企画の趣旨

多くの途上国で水産資源の減少が大きな問題となる中、我が国は 15 年以上にわたって水産資源管理の分野で技術協力に取り組んできた。途上国の地域特性、漁業形態等に応じた資源管理手法に関する研究も行われるようになった。途上国の漁業形態は日本に似ており、また過去に水産資源管理で苦勞した日本と状況が似ているため、日本の援助に対するニーズが高まっている。

本シンポジウムでは、日本の国際協力の現状と事例を紹介しながら、欧米ドナーとの比較優位性や日本が得意とするコミュニティ主導の資源管理の特徴、日本のウィークポイント、ドナー間の援助協調などについて議論し、今後のあるべき姿を考えることにより、日本の国際協力事業の質的向上及び途上国支援につなげることを目的とする。